

はじめに 「書く」といふこと

何を書くか・心を動かされたことをわかりやすく伝えたい！

文章を書くこうとするとき、まず、何について書くか（主題）があり、そのことをよりわかりやすく伝えるためにどんなことを書くか（題材を取材）、どうやって書くか構想をめぐらせる。

例えば、今日の給食の時間に、「あれ、いつもの給食と何か違うぞ。いつもよりウマイ！きつと作る人が変わったんだ！」というのを感じたら、それを主題として作文が書ける。そのことを明日の朝の会のスピーチでクラスのみんなに話をしよう。これが、書く目的であり、伝える相手である。

しかし、くわしく書くこうとすると、どんなことを書くかうまく思いつかないこともあれば、なかなか整理しにくいこともある。そういうときは、だれかと話し合ってみてもよい。また、思いつきをメモにして並べてみるとか、思いついた言葉をどんどん書き出してみるとか、場面を再現してみるとかいう方法で、書く内容を「豊かに」することができると、給食を例にすると、何を食べたのか、どんな味だったのか、どうしてそう感じたのか、友達はどう言っていたか、そのことについて家の人とはどんな話をしたのかなど、書く材料はたくさんあるはずだ。

表現を工夫して

書かれたものには「声」の調子という助けはない。それだけに、表現には注意が必要である。

文の続き具合や、「何がどうした」という主語と述語の関係などにも注意しよう。文末の工夫もしてみよう。「――」した。「――」した。「のよう」に出来事を並べるだけではなく、「――」している。「――」だ。「などの文を入れたり、「――」からだろう。「とか「――」かもしれない。「のような自分なりの考えを入れることも大切だ。言葉の選び方についても考えよう。例えば、「食べる」というのと「たいらげる」というのでは感じがちがう。また、「食べつくす」と表現すれば、全部残さず食べるという感じがでる。どういふ言葉を使うかによって、ずいぶん受け取り方がちがってくる。

文章を書くとき、最初には思ってもいなかったほど、考えが深まることもある。書いているうちに、考えがまとまることもある。実は、「書く」ということは、伝えるだけではなく、考えを広げ、発展させていくことでもある。

（光村図書 五年（上）銀河をもとに加除筆）

作文を書く流れ(過程)

やる気と根気が必要です！

スタート

- 1 書く目的と読む相手をはっきり知る。
- 2 主題を決める。

- 3 書く題材を集めるための取材をする。
- 4 構成を考え、必要な時には「組み立て表」を作る。

- 5 組み立て表をもとに、主題伝えるための工夫をしながら、下書きをする。

推敲

- 6 下書きした文章を読み直し、より主題の伝わる文に直す（推敲）。

- 7 完成！（vo）
- 8 読む相手に読んでもらう。
- 9 お互いに評価する。

ゴール

あなたにはやる気と根気がありました！
何よりも文を書く力がありません！

《目的と読む相手》

作文を書く時には、まず、書き始める前に、「何のために書くのか」「だれに読んでもらうのか」を頭に入れて、そのことを清書が終わるまで意識して書くことが大切です。

では、今回の作文を書く目的と読む相手は？

書く目的	読む相手

構成について考えよう

構成とは？

主題（一番伝えたいこと）のよく伝わる文章にするために、
題材をどのように配列する（並べる）か考えて組み立てること。

生活作文で使える！主な構成の形

「時間の流れの順」で書く型

ある出来事を時間の順に書いていく方法。

低学年でよく使ったね！

「初め・中・終わり」の型

出来事の始まり→くわしい内容→考えたことのまとめを3部構成で書く。

高学年でよく使っているね！

「起承転結」の型

事の起こり→どうなったか→変化
→結末を4部構成で書く。

初め・中・終わりをもう少し複雑にした形だね

「頭括型」や「尾括型」

主題を先に述べる方法と
主題を最後にまとめる方法。

「消火器事件」の作文例や

浜田さんの組み立てメモから学ぼう！

分かったことや
大事なことを書
きましょう

主題について考えよう

主題とは？

作文の中で言いたいことの中心となるもの。

○ 「体験したこと」や「考えたこと」の中から主題を考えてみましょう。

ヒント

家族との生活の中で経験した出来事について、考えたこと。

例：「親に怒られてくやしかったこと・分かったこと」

「おばあちゃんの生年祝いで感じたこと」

「病気や風邪のときに感じた親のありがたさ」

「兄弟げんかをして思ったこと」

自分と友達との学習や生活の中で起きたことについて、考えが変わったり、疑問に思っていること。

例：「いたずらをして考えたこと」

「朝練習・朝の活動をして思ったこと」

「先生に怒られたこと」

「友達とけんかして仲直りをするまでに思ったこと」

自分自身に関するある出来事をきっかけに、考え方や見方が変わったこと。

例：「自分の言った一言で人を傷つけて考えたこと」

「部活動や習い事を通して得たもの」

社会的な活動を通して、気づいたり考えたりしたこと。

例：「ボランティア活動に参加して」

主題文を書いてみよう！

「○○して、□□こと」の形で書こう。

○○には体験したことを書こう

□□には考えたことを書こう

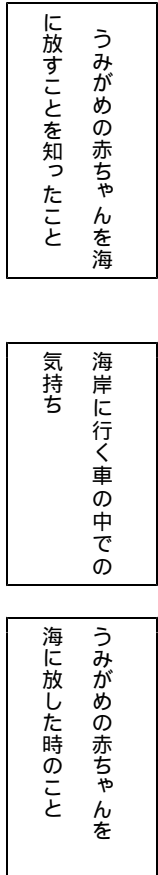
主題文

主題に選んだ理由を書きましょう。

たくさんの体験や考えの中からどうしてこの主題をえらんだかというと、

A カード法

例

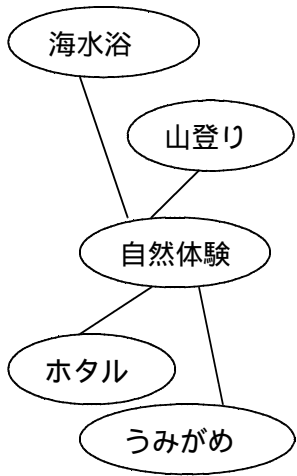


〔良い点〕カードに取材したことを書き、いくつかのカードをまとめて小見出しをつけることがそのまま構想メモとなる点。

〔弱点〕広がった発想をまとめて道筋をみつけるのが難しい。

B リンクマップ法

例

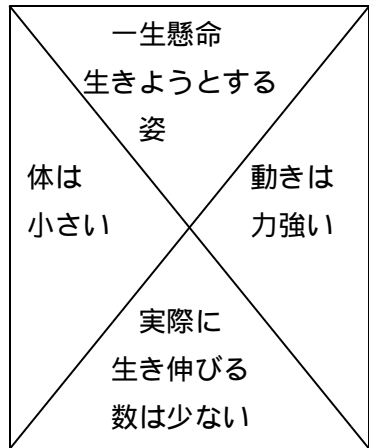


〔良い点〕ウェビングと同じ方法。取材して分かったことや思っただれぞれの項目をリンクさせながら図式化する方法で、考えを広げるのによい。

〔弱点〕発想を広げるのにはよいが、構成にはむかない。

C 対角線式図式化法

例



〔良い点〕物事の反対側にも目を向け、書くことを発見するのに便利。

〔弱点〕取材はできるが、構成はできない。

D 観点提示法

例

いつ	どこで	だれが	何を	なぜ	どのように
夏休みに	宮崎県日南市の海岸	私と家族	あかうみがめの海に放したこと	情報を知りてみたから	係の方から方法や説明を聞いて

〔良い点〕「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「なぜ」「どのように」などの質問が書かれたワークシートに答えを記入していくことで、内容や配列を発見する方法。特に、手紙や記録文など

〔弱点〕ワークシートの質問にあることだけが、題材となり、みんなが同じ事を書くことになったり、自分の書きたいことが書けないという弱点。

E 構成提示法 「初め・中・終わり」「起承転結」「頭括型・

尾括型」など、構成の仕方を提示する方法。

例

流れ	内容
起	あかうみがめの赤ちゃんを海に放す体験をした。
承	小さくかわいい赤ちゃんにがんばれと願った。
転	生きられる数は少ないと知りショックだった。
結	かめが元気で生きられるように海を汚さない。

〔良い点〕 書く順序を重視するときに便利。

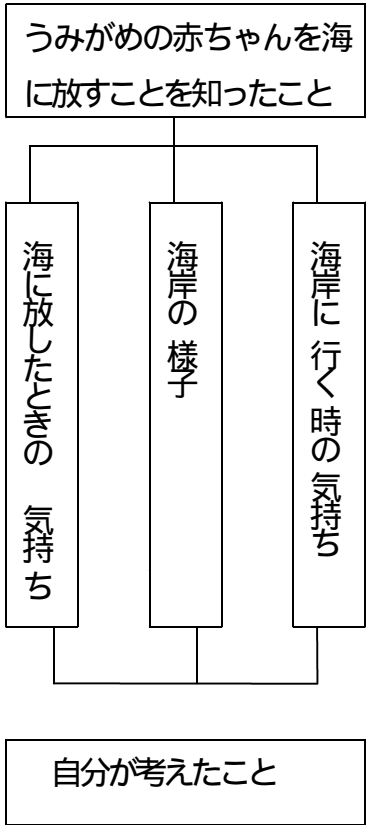
〔弱点〕 書くべき内容の発見にはつながりにくい。

組み立て表を使った構成について考えよう！

例1 【初め↓中↓終わり】のパターン

流れ	題材
初め	うみがめの赤ちゃんを海に放すことを知ったこと
中	海岸に行く車の中での気持ち 海岸の様子 うみがめの赤ちゃんを海に放した時のこと
終わり	自然や海を大切にしようと思った

例2 【初め↓中↓終わり】のパターン



例3 【起承転結】のパターン

流れ	内容
起	あかづみがめの赤ちゃんを海に放す体験をした。
承	小さくかわいい赤ちゃんにがんばれと願った。
転	生きられる数は少ないと知りショックだった。
結	かめが元気で生きられるように海を汚さない。

例1～3の組み立て表と教科書の浜田さんの組み立て表を比べて、そのよさを考えましょう。

組み立て表の違いがあるのはどんな目的があるからなのかを考えるといいね。

下書きをしよう！」「記述」・・・文章を書くこと

組み立て表をもとにして書き始めましょう！

【書き出しの工夫をしよう！】

話題から書く

四月三〇日、僕たちは遠足で
海洋博記念公園へ行きました。

結果から書く

八月三〇日のこと、飼っていた
子犬が突然死にました。

ある瞬間の気持ちから書く

「しまった。」と思った時
は、もう遅かった。

時から書く

夏休みのある朝のことだった。

人の言葉や会話から書く

「はい、おまちとおさま。」
店員さんのいせいのよい声が
店内にひびいてくる。

「ええ！ それ本当？」

私は幸子に聞き返した。

情景・辺りの様子から書く

秋風にゆれるすすきの穂の
向こうにオレンジ色の夕焼けが

音から書く

見えた。

ピーポー、ピーポー。

わたしはパトカーの音で目が覚めた。

主題から書く

うちのお父さんは、体は大きいけど、と

てもやさしいお父さんです。この間のことです。

音と様子から書く

カタカタカタカタ。ミシンをふむ母の
足が、機械のように動く。

行動から書く

僕は、キャッチャーめがけておもいつき
りボールを投げた。

音から書く

「グチャ。」足元で奇妙な音がした。

【言い回しを工夫しよう】

ふつうの説明

1 ひがんばなが土手に咲いている。

様子をよりくわしく説明

2 ひがんばなが土手一面に
咲いている。

比喩（たとえの）表現

3 ひがんばなが土手で
もえている。

1 雨が音もしないで降っている。

2 雨がしとしと降っている。

感じたままを感覚的に
書いている。

見たままの様子を
正確に書いている

【気持ちや様子が生き生きと伝わるための工夫をしよう】

○ 強く表したい気持ちや大事なことを表すときには「
」を使う。

わたしは、自分に勇気がないのが情けなく、くやし
思ったが、「試合の時は絶対に取ってみせる。」と、
何度も心の中でつぶやいた。

○ 短い文で、スピード感を出す。

二回戦。わたしはゴールマンになった。「絶対に ボー
ルを取ってみせる。」「でも、取れなかったらどうしよう。」「
がんばろうという気持ちと不安が、ぐるぐる頭の中をかけめ
ぐる。わたしは、手を思いつきり出して、ボールがくるのを
待っていた。そして、ついに、わたしのところにボールが飛
んできた。

○ 周りの声や音なども入れて書く。

「ゴール。」の声。たいこの音。

○ 書き出しの文の工夫をする。

「こんにちは。」のあいさつから始まった体育の授業。

書いている途中で何を書いてよいのか迷ったら、
次のようなことも考えてみよう。

周りにはどんなものが見えたか。
その人は、どんな服を着ていたか。
どんな話をしたか。
最後にはどうなったか。
その時、どんな気持ちになったか。

【題名を工夫をしよう！】（内容と一致すること）

- 1 書き終わってから最後に、内容から抜き出して題名をつくる。
- 2 ・会話文の中から作る
- 3 ・本の題名をまねて作る

推敲しよう！

書いた文章を繰り返し読みましょう。

そのほか、次のことをチェックしてみましょう。

	○× チェック	内容
1		主題のはっきりした文章になっていますか。
2		段落を意識し、段落区分をはっきりさせて書いているか。
3		くわしく書くところがしつかり書けましたか。
4		文末の表現（常体・敬体）は統一されていますか。
5		長すぎる文はありませんか。
6		書き出しの工夫がされていますか。
7		句読点や「」仮名遣い、助詞などを正しく使っていますか。誤字、脱字は？
8		題名の工夫はされていますか。
9		習った漢字を使っていますか。

段落の最初は、原稿用紙は「一マス空ける。繰り返しのある無駄な部分はけずったり、まとめたりしましょう。」

常体とは「だ」「した」「である」
敬体とは「です」「ました」

記号（校正記号）を使って推敲してみよう。

校正記号	内容
改行	
会話文	
削るところ	
漢字で書く	
一字下げ	
一字上げ	
句読点や読点を入れる	
文字の誤りを正す	
空ける	
つめる	
上下の入れ替え	
前の行に続ける	
再考する	
もう少し詳しく	
意味が分からない。文がつかない	

清書しよう

一字一字丁寧に

読む人の身になって、

読む人が読みやすいように書きましょう。

作文用紙の使い方に
気を付けよう

句読点の打ち方、会話文の改行、

かぎの使い方、段落の改行と二字下げ

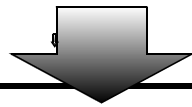
作文用紙の使い方

題	一行目の三マス目から書く。
学年組	二行目に書く。姓と名の間を一マス空ける。下も
氏名	一マス空ける。
書きはじめ	二行目から書く。一字下げる。
句読点	文が終わったしるし「。」で、文の最後につける。
読点	意味の切れ目を示すため、文中に打つ「、」記号。
読点の特別	句読点は行の一番上にきてはいけない。句読点が行の一番上にきてしまうときは、前行の一番最後のマスに入っている字の右下に打つ。かぎかつこ
特別	（「」も同じ。）

段落	会話文	「」の使い方
前の文章と次の文章で、話の内容が変わったときに、分かりやすいように段落を区切る。その際は、改行して、一字下げて文を書き始める。	会話文は、他の文と区別するため「」（かぎ）をつける。「かぎ」は一字分として、一マスに書く。特別短いものをのぞいて、できるだけ改行して書く。	・話したことを書くとき 例 「おはようございます。」 ・思ったことを書くとき 例 わたしは「うれしいな。」と思いました。 ・ある言葉を目立たせたいときや、読みやすくしたいとき 例 大きな魚や「ざりがに」にもおそろわれます。

“組み立て表” 名前（ ）

			一番伝えたいこと
終わり	中	初め	文章の組み立て



	くわしく書くこと
	読む相手は どんなことを知りたい だろうか？読む相手を意識 して題材を集めることが 大事だね！

“組み立て表”

名前（

）

ここに 主題を書こう！			一番伝え たいこと
終わり	中	初め	文章の組み立て
出来事に対する 今の自分の気持ち 心に残ったこと 考えたこと	その時の気持ち したこと 言ったこと 見たこと 聞いたこと その時の様子	出来事が起こった 『きっかけ』や初めの様子	
出来事が起こった「時間の順」に書くことが 作文を書くときの基本だったね。			



見たこと 周りの様子 聞いたこと 言ったこと したこと どうしてそうだったのか いつもの様子と違うところ 思ったこと感じたこと 分かったこと考えたこと その時の気持ち	次には挙げる例の中から、 くわしく書いたほうがよいもの はないか考えましょう。	くわしく書くこと
読む相手は どんなことを知りたい だろうか？読む相手を意識 して題材を集めることが 大事だね！		